

2026年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅰ期）問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 人文学専攻 哲学歴史学専修	選択問題

哲学を専攻する者は、以下から 1 問を選んで論述しなさい。なお、選んだ問題の記号を最初に記すこと。

- A. 「われわれの認識がすべて経験をもってはじまるとはいえ、それだからといってわれわれの認識がすべて経験から生ずるのではない」という命題について、あなたの理解を説明したうえで、その哲学的意義もしくはあなたの見解を論述しなさい。
- B. 「汝の意志の格率がつねに普遍的立法の原理として妥当しえるように行為せよ」という命題について、あなたの理解を説明したうえで、その哲学的意義もしくはあなたの見解を論述しなさい。
- C. 「ひとは、哲学を学ぶことはできず、哲学することを学びうるのみである」という命題について、あなたの理解を説明したうえで、その哲学的意義もしくはあなたの見解を論述しなさい。

歴史を専攻する者は、以下から 1 問を選んで論述しなさい。なお、選んだ問題の記号を最初に記すこと。

- D. 歴史叙述における「ナショナル・ヒストリー」の限界と可能性について、具体的な国や地域の事例に即して論じなさい。
- E. 歴史学と他の人文・社会科学との学際的な連携は、何を可能にし、また何を困難にするか。具体的な事例に即して論じなさい。

解答または解答例：
Answer Keys or Examples：
【哲学】

解答では、選択した命題について①語句の意味や文脈を適切に説明し、②関連する主要概念や論点（例：ア・プリオリ／経験、定言命法／仮言命法、哲学することの意味など）を整理したうえで、③当該命題が哲学全体（認識論・倫理学・教育論等）においてもつ意義を示すことが求められる。さらに④自分の立場を明確にし、根拠を挙げて説得的に論述することが望ましい。単なる要約や感想に終始するものは評価しない。

【歴史学】
解答では、設問内容と関連する既存の学術的議論や史実等について、適切かつ妥当な理解に基づいた論述が求められる。

出題意図：

Intent of Questions :

【哲学】

本設問は、カント哲学における代表的な命題を素材として、哲学的テキストを正確に読解し、論点を自ら抽出・整理したうえで、その哲学的意義を筋道立てて論述する能力を問うものである。とくに、概念理解の正確さ、論述の論理的・一貫性、ならびに自らの見解を根拠に基づいて提示する力を総合的に評価する。

【歴史学】

本設問は、歴史学における理論的および方法論的問題について、その背景と具体的事例を踏まえながら論点を整理し、自身の見解を一貫した論述として提示する力を総合的に評価する。